

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	てらこや わくわく (単位2)		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 12日		2026年 2月 25日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 18
○従業者評価実施期間	2026年 2月 12日		2026年 2月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個々の発達段階に応じた個別支援の柔軟な対応	<ul style="list-style-type: none"> ・1対1の支援のため細やかな対応が可能 ・支援者間での共有により、同じ活動でもそれぞれの発達段階に適した支援内容に変更し応用が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援会議の定期実施による職員間の共通理解促進 ・成功事例の蓄積と共有(ケーススタディ化)
2	保護者との密な連携による安心感のある支援体制	支援時間のうち最後の10分間をフィードバックの時間に充て、保護者と一緒に振り返りを行うことで、最近の家庭や学校での様子も聞くことができている。また、学校との連携が必要な家庭には提案し、学校との連携を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳・面談の質の向上(ねらい・成長の見える化) ・保護者参加型イベントや勉強会の実施 ・家庭と事業所の支援方針の一貫性強化
3	保護者会やきょうだい食堂など、利用児童の周りの家族への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会では保護者が教える側になるお料理教室なども企画し、主役になれる場面を作っている ・保護者会で仲良くなった保護者同士が情報交換を行うようになってきている ・きょうだい児の交流として一緒にご飯を食べて仲良くなることからきょうだい食堂を企画した 	<ul style="list-style-type: none"> ・おやじの会(父親会)を作りたい ・来年度は助成金なしできょうだい食堂を継続するため、資金的なサポートを要検討

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域や外部の健常児との交流が不足している	大学生との企画で数回インクルーシブおにごっこなどを行ったが、継続性がなかった。公園に行ったとしても交流は生まれないので、新たな企画が必要。	継続的に外部との交流が可能な企画発案する
2	非常時対応マニュアルや事故発生時の連絡等の周知不足	すでに単位1, 2で説明済みなので、単位3で新たに説明することができていなかった。	改めて契約家庭に非常時の対応や緊急時の連絡について年度初めに周知する(契約時に話しているが、ほかにも要件が多いため、保護者さんの記憶に残っていない可能性があるため)
3			